

令和8年度

芝田学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学び、探求する学習者の育成を目指した授業実践
- 「個別最適な学びと協働的な学び」を実現する授業実践

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、校内研修での話し合い等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な計算や既習漢字などについては概ね身に付いている。 ●「定着が難しい」「理解に時間がかかる」児童が複数いて、学力の二極化が見られる。	・身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を、他の学習や生活の中(日記や手紙など)で活用することができる。 ・学習習慣を身に付け、辞典や資料、ICTなどから情報を適切に収集し、活用することができる。	・インプットすることだけでなく、アウトプット(書く・話す・教える)することをセットで行うようにする。 ・個に応じた指導を心がけるとともに、反復練習が継続的に楽しく行えるように工夫する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○小集団の中では、進んで考えを伝えようとしている。 ●自分の思いや考えがあっても、理由や根拠を明確にして、説明をするのが苦手な児童がいる。	・自分なりの見方・考え方で課題の解決策を筋道立てて考えることができる。 ・必要に応じて、本や資料、インターネット等で調べ、理由や根拠を明らかにして自分の意見を持ち、表現することができる。	・「なぜ」「どうして」と問うことで、児童が理由を考えたり、根拠や答えを主体的に探したりできるようにする。 ・ペアやグループ、全体など様々な学習形態で学び合う場(協働的な学び)を設け、能動的な学習を充実させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組むことができる。 ●興味や関心を持たず学習に前向きに取り組めない児童や、粘り強く取り組めない児童がいる。	・自分の目標を持って学習に向かい、試行錯誤しながら、あきらめずに取り組むことができる。 ・探究心をもち、目的に合わせて読書をしたり、興味や関心に合わせて、様々な本を読んだりすることができる。	・自分で課題を見つけて主体的に学習する児童の育成を目指して、自己決定できる場を設けたり、自主学習ノートの使い方を継続的に指導したりする。 ・本の貸し出しを積極的に行い、読んだ本を紹介しあう場を設けたり、読書クイズを行ったりするなど、読書の習慣化を図る。			